

平成30年度 日本大学櫻丘高等学校 自己評価票

〔本校の目指す学校像〕

日本大学の教育理念である「自主創造」の精神を元に、教育活動を通して「自主創造型パーソン」の育成を目指す。21世紀の社会の変化に対して積極的に対応できる人材を育むために教育内容を一新し、「櫻イノベーション」としてより一層充実した教育活動を展開し、魅力ある学校づくりに取り組んでいく。

※「櫻イノベーション」は次の4つの柱から構成される。

- ① アクティブ・ラーニング ICT教育（知識の構築と応用力の育成，教科書を基本とした到達目標の達成，思考の基盤となる国語，数学，英語の学力の育成）
- ② 高大連携体験型教育（国際理解，異文化・自国理解，体験学習，探求型学習方法の習得）
- ③ グローバル教育（英語4技能，コミュニケーション力，GTEC，TOEFL・英検）
- ④ クリティカル・シンキング（理的思考力，展開力，問題解決能力の育成）

〔本校の特長及び課題〕

本校は、文理学部の併設校である利点を十分活用し、高大連携教育を進めるとともに、平成29年度より総合進学（S）クラス、特別進学（S）クラスの2コースを設定し、日本大学を中心とする生徒の志望に対応した教育の充実と進学指導体制の確立を目指している。きめ細やかなホームルーム指導や生活指導で、生徒の自主性を育み、社会性も育成していることが特徴である。平成30年度より、全教室の電子黒板の設置、校内LAN設備の整備、タブレット端末（iPad）などのICT（情報通信技術）を活用した授業を展開し、文部科学省の推進する教育改革に対応したカリキュラムの策定や教職員が一つのチームとして、それぞれの専門性を発揮し、連携、協働することができるような校務の在り方、教職員の働き方の見直しが課題である。

平成30年度の取組結果

〔概況〕

平成29年度の取組結果を踏まえ、「生徒による授業評価アンケート」「教員自己評価チェック」「学校自己点検・評価」等の継続実施により、生徒をはじめ教職員の意識向上と校務分掌の円滑な運営を目指して取り組んでいる。

平成30年8月に、本館の電子黒板等ICT教育環境が整備され、2学期より教室で電子黒板を活用した授業が展開されている。第1学年では2学期よりiPad（タブレット端末）を導入し、授業等での有効な活用や「Classi」のアンケート機能を利用して教育効果の検証や生徒会活動にも運用し、新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて取り組んでいる。年3回の教員相互授業参観週間や11月の授業公開、文理学部学生による授業参観などを実施し、各教科の研究S授業で授業内容や教育技術の向上を図る。登校指導など生活指導部が先導し、生徒の安全確保や近隣住民への配慮にも取り組んでいる。グローバル教育をより一層推進するために、従来の英国語学研修に加え、長期留学（単位認定）、中期（ターム）留学をニュージーランドにおいて平成31年度実施に向けて立案計画した。

教育活動

| 取組目標 | 取組結果・進捗状況 | 達成状況 |
|-----------------------------|--|------|
| 「新学習指導要領」や「高大接続改革」施行に向けての取組 | 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、今年度より教員相互授業参観週間を学期に1回（年3回）実施した。また、観点別評価（知識及び技能，思考力・判断力・表現力等，意欲・関心・態度）の導入段階としてシラバスに掲載し、各教科における評価等の可視化を進めた。 | B |
| 教員相互授業参観の実施 | 授業改善の一環として教員相互授業参観週間を学期に1回ずつ設定した。教科の枠を超えて多くの教員が参観した。また、評価シートも作成し、評価の観点を明示し | B |

| | | |
|-------------------------|---|---|
| | た。 | |
| アクティブ・ラーニング型授業とICT教育の充実 | 全教室への電子黒板の完備，iPad（タブレット端末）所持といったICT機器の導入により，目的に応じた活用，工夫が見られた。授業改善に対する意識が昨年度より高くなり進捗が見られた。 | B |

学校生活への配慮

| 取組目標 | 取組結果・進捗状況 | 達成状況 |
|---------------------------------------|---|------|
| いじめ防止のための取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本大学「いじめ防止リーフレット」（教職員用・家庭用）を配布し，教員と生徒・保護者とで情報を共有し，ささいなことにも注意の目を向け，面談指導の充実や昼休みパトロールを実施し，いじめ防止に努めた。 ・「学校生活アンケート」を実施した。学校生活全般に関する質問及び悩みやいじめに関する質問を通して，各生徒の状況の把握に努め，気になる記述には担任が個別対応に当たった。 | A |
| 震災対応の具体的安全策の立案・実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・9月1日（土）に避難訓練を企画，実施した。 ・震災時の対応行動確認と情報提供について，全校生徒に周知し，訓練を実施した。今年度は新体育館・生徒会館及び新グラウンドの完成に伴い避難経路を新たに検討し，訓練を立案した。 ・昨年度に引き続き，新たな「帰宅方面別生徒リスト」を作成し，担当者を決め，最寄りの各駅（桜上水・下高井戸・経堂）への安全な誘導と震災時対応の充実を図った。 ・登下校時の緊急避難校ネットワークの周知徹底を行った。 | B |
| 社会生活上のマナー意識を向上させる。（学校生活においても同様の基本的事項） | <ul style="list-style-type: none"> ・成城警察署の講師を招き講演会を実施した。（薬物乱用防止，SNS等インターネット関連・JKビジネスの実態等） ・自転車事故防止（交通安全ルール）に関連した安全教育の充実を図った。 | A |
| タブレット端末の導入に当たってのルール整備と運用 | 今年度の新生よりタブレット端末を導入することとなり，7月に「タブレット利用手引」及び「タブレットの取り扱いについて」を策定し，9月から運用を開始した。 | A |

課外活動

| 取組目標 | 取組結果・進捗状況 | 達成状況 |
|--------------------|---|------|
| 芸術鑑賞の見直し | 昨年度から一般公演を鑑賞している。昨年度は帝国劇場でミュージカル，今年度は「シルク・ド・ソレイユ」を鑑賞した。生徒たちは非日常的な空間を過ごし，満足度も高かった。次年度以降もより良い作品の鑑賞を進めていきたい。 | A |
| 生徒会行事の開催時期変更に伴う見直し | 体育大会を11月に移動したことにより，1学期の担任の負担は軽減された。しかし，11月実施に伴う準備においては修学旅行や基礎学力到達度テスト定期考査などの学校行事が多く重なっていた。 | B |

進路指導

| 取組目標 | 取組結果・進捗状況 | 達成状況 |
|--------------------|---|------|
| 日本大学への進学者数増加に向けた取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・7月の三者面談の期間に日本大学各学部の入試担当者に来校していただき，学部説明会を実施した。延べ208名の参加があり，生徒・保護者の進路に対する理解を深める場となった。 ・各学部のパンフレットを進路相談室前に整備し，生徒が必要に応じてすぐに情報 | A |

| | | |
|--|---|--|
| | <p>を手に入れられる環境を整備した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室や掲示板に日本大学のオープンキャンパスや個別説明会の情報を掲示し、生徒への情報提供を行った。 | |
|--|---|--|

保健衛生

| 取組目標 | 取組結果・進捗状況 | 達成状況 |
|---------------|--|------|
| 保健衛生（健康管理）の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の準備を十分に行い、スムーズな運営をすることができた。全員の受診が完了した。 ・学校感染症などの情報を教職員・生徒に周知徹底し、予防が図られた。教職員のインフルエンザ予防、ワクチン接種予防効果を高めた。 ・保健室看護師が2名体制となり、生徒に対して、より迅速で専門的かつ適切な処置が可能となった。また、随時学年、クラス担任と情報共有や連携を取りながら、保健衛生の視点から生徒の安全と教育現場の充実を図っている。 | A |
| 生徒相談を充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・1学年全員が生徒相談資料調査を実施した。その結果について、各担任が専門家による説明を受け、学級経営・生徒指導に役立たせた。 ・インテーカー資格取得を奨励し、教職員3名が取得した。 ・生徒相談室の環境整備をした。 | A |

図書

| 取組目標 | 取組結果・進捗状況 | 達成状況 |
|----------|--|------|
| 円滑な図書室運営 | <ul style="list-style-type: none"> ・貸出、返却業務が全てパソコンで管理できるようになった。文理学部図書館も生徒証で利用できるようになった。 ・蔵書の精選は思うように進まなかった。図書の選定よりも蔵書とデータの整合性を高める作業に時間がとられた。除籍作業は比較的円滑に進んだ。 ・学習スペースの利用マナーは担当事務と図書委員の働きで向上させることができた。 | B |
| 図書室の活性化 | <p>図書委員を3つの部門に分けて、円滑に活動できるよう促したが思うように作業が進まなかった。役割を細分化せずにリーダーを決めて、委員会全体で動く方が良かった。</p> | B |

広報

| 取組目標 | 取組結果・進捗状況 | 達成状況 |
|-----------------|---|------|
| ウェブを利用した広報活動の拡充 | <p>「inter-edu.」の「edulog」を来年度のホームページに掲載することを決定し、受験生への本校PRを従来以上に容易にした。4月以降の内容を業者とともに調整中である。ホームページ内の「NEWS&TOPIX」については、今まで更新が遅く不十分であったが、見直しを図り、更新を頻繁に行っている。</p> | B |
| 外部の説明会での広報活動 | <p>今年度は逆風の中での広報活動となったが、3回の学校説明会、塾対象説明会、中学校訪問や塾などの訪問を行い、2018年度入試と遜色のない志願者を確保できた。学校案内パンフレットも従来とは異なるデザイン、内容としたが、株式会社学校情報システムの調査によると受験生、保護者からは好評を得ている。</p> | A |

管理運営

| 取組目標 | 取組結果・進捗状況 | 達成状況 |
|----------------|---|------|
| 安定した経営のための生徒募集 | 前年度入試結果を踏まえ、2019年度入試では、推薦入学試験及び一般入学試験の基準の見直しを図った。一般入試を一般単願、一般オープンに入試区分を分け、受験生のニーズに合わせた入試を行ったことで、志望者は例年を若干超えた。 | B |
| I C T環境の整備 | 夏期休業中に、全ての普通教室に電子黒板を設置。校内L A Nの敷設工事を行った。教職員の研修も実施し、2学期からI C T機器を活用した授業を開始できた。 | A |

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

平成31年度の取組目標及び方策

教育活動

| 取組目標 | 取組方策 | 取組スケジュール |
|-----------------------------|--|---|
| 「新学習指導要領」や「高大接続改革」施行に向けての取組 | 2022年度から施行される新学習指導要領で掲げられている、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と観点別評価(知識及び技能, 思考力・判断力・表現力等, 意欲・関心・態度)の導入 | 4月に教科の目標と観点別評価をシラバスに掲載。目標設定から評価というサイクルを確立する。 |
| 教員相互授業参観の実施 | 授業改善の一環として教員相互授業参観週間を学期に1回ずつ設定する。評価シートも作成し、評価の観点を明示する。教科のみならず学校全体で導入する。 | 学期ごとに教員相互授業参観週間を設ける。 ①6月10日～15日 ②9月9日～14日 ③2月17日～22日 |
| アクティブ・ラーニング型授業とI C T教育の充実 | 全教室への電子黒板の完備、iPad(タブレット端末)所持といったI C T機器の導入により、目的に応じた活用、工夫を促す。 アクティブ・ラーニング型授業とタブレット端末や電子黒板を活用した授業のより一層の実践を目指す。 | 1学期に電子黒板をはじめとしたI C T環境を整え、2学期から授業で活用する。 |

学校生活への配慮

| 取組目標 | 取組方策 | 取組スケジュール |
|--------------------|---|--|
| いじめ防止のための取組 | ・日本大学「いじめ防止リーフレット」(教職員用・家庭用)を基に、いじめが発生しない環境づくりと小さないじめの発端を見逃さないよう注意を図る。 ・「学校生活アンケート」を実施し、生徒の実態把握に努め、担任を中心に対応する体制を構築する。 | 面談指導を充実させ、担任と生徒のコミュニケーションを密接に図る。 |
| 震災対応の具体的な安全策の立案・実施 | ・1学期に火災を想定した避難訓練、2学期に震災を想定した避難訓練を実施予定である。 ・震災時の対応行動確認と情報提供を全校生徒に実施する。 ・昨年度に引き続き、新たな「帰宅方面別生徒リスト」を作成し、担当者を決め、鉄道の各駅(桜上水・下高井戸・経堂)への安全な誘導と、震災時対応の充 | ・安全対策上のマニュアル作成と保護者を含めた周知徹底 ・4月末に火災を想定した避難訓練、9月上旬に震災を想定した避難訓練を計画・実施する。 ・新規「帰宅方面別リスト」の作成 防災関連の研修会への参加 |

| | | |
|---|---|--------------------------------------|
| | <p>実を図る。</p> <p>・前年度に引き続き、登下校時の緊急避難校ネットワークの周知徹底を図る。</p> | <p>・登下校時の緊急避難校ネットワークの周知徹底</p> |
| <p>社会生活上のマナー意識を向上させる。 (学校生活においても同様の基本的事項)</p> | <p>成城警察署の講師を招き講演会を実施する。(交通安全, SNS等インターネット関連, JKビジネス等のタイムリーな内容を希望)</p> | <p>7月中旬に成城警察署の講師による講演を実施</p> |
| | <p>自転車事故防止(交通安全ルール)に関連した安全教育の充実を図る。</p> | <p>自転車通学許可登録時にDVD等を利用した交通安全教育の充実</p> |

課外活動

| 取組目標 | 取組方策 | 取組スケジュール |
|------------------------------------|---|---|
| <p>学校行事である文化祭・体育大会実施に伴う開催時期の検討</p> | <p>昨年度から体育大会の実施が11月になり、企画の充実を図る。3年生の基礎学力テストも終わっていることもあり、3年生を巻き込んだ企画にする。</p> | <p>4月から6月までに多くの委員会を開催し、委員会の声をできる限り聞く。生徒全員が参加した体育大会を目指し、2学期以降実行する。</p> |
| <p>芸術鑑賞会の見直し</p> | <p>平成31年度は、林家たい平さんをお招きし、芸術鑑賞会を実施する。また、本校で初めて漫才なども実施する予定である。</p> | <p>1学期中に業者と綿密に連絡を取り、次年度以降に実施する芸術鑑賞会の候補を検討し、より良い芸術鑑賞にする。</p> |

進路指導

| 取組目標 | 取組方策 | 取組スケジュール |
|---------------------------|--|---|
| <p>日本大学への進学者数増加に向けた取組</p> | <p>1年生を対象に日本大学の学部に進学し、大学についての理解を深める場をつくる。</p> | <p>学部訪問日 7月8日(月)</p> |
| | <p>日本大学学部別個別相談会を今年度に引き続き7月に実施。3者面談期間に実施することで生徒・保護者が参加しやすい環境をつくる。</p> | <p>進学相談会① 7月13日(土) 進学相談会② 7月16日(火)</p> |
| | <p>日本大学進学ガイドや各学部ガイドを進路相談会付近に常設して生徒への情報発信を行う。</p> | <p>通年</p> |
| | <p>各学年で進路説明会を実施し、日本大学への進学方法や入試制度についての知識・理解を深め、日本大学への興味・関心を高める機会を設ける。</p> | <p>進路説明会 第3学年 4月25日(木) 9月7日(土) 第2学年 11月16日(土) 第1学年 7月10日(水)</p> |
| <p>進路指導の充実</p> | <p>研修会への積極的な参加と教員への適切な情報発信を行う。</p> | <p>・1学期から実施される各種研修会の要項を「Classi」上に掲載し、全教職員が参加しやすい環境をつくる。 ・共用フォルダを活用し、研修会の資料等を全教職員の目に触れる環境をつくる。</p> |

保健衛生

| 取組目標 | 取組方策 | 取組スケジュール |
|---------------|-----------------------------------|------------------------|
| 保健衛生（健康管理）の充実 | 健康診断会場変更に伴う準備とスムーズな運営及び全員受診を促す。 | 健康診断は4月23日（火）本校体育館にて実施 |
| | 感染症や熱中症などの情報を教職員・生徒に周知徹底し、予防に努める。 | 年間を通じて随時 |
| 生徒相談の充実 | 教職員のインターカー資格取得・研修会参加を奨励する。 | 1学期及び随時 |
| | 環境整備と周知徹底を行い、生徒の利用しやすい相談室の運営に努める。 | 通年 |

図書

| 取組目標 | 取組方策 | 取組スケジュール |
|-----------|--|--|
| 図書室の活性化 | 生徒目線の選書を進める。 | 生徒を主体とした選書を行う。 |
| | 図書の購入状況の提示を適切に行う。 | 新着図書に関する情報を図書新聞、iPad等を利用して随時生徒に知らせる。 |
| | 図書委員を中心に時節に合った企画や展示を行い図書室の利用が活発になるように促す。 | 図書委員会を定例的に開催し、生徒が主体的に活動できる環境を作る。 |
| 電子書籍貸出の検討 | 本校のICT化に合わせて、電子書籍の貸出が可能か検討を進めていく。 | ICT委員会に相談しながら図書部会で検討していく。次年度委託予定の丸善とも相談を重ねる。 |

広報

| 取組目標 | 取組方策 | 取組スケジュール |
|--------------------------------|--|---|
| 引き続き広報活動の媒体を紙ベースからウェブ利用を推進する。 | 「edulog」に限らず、ホームページでも、校舎や学校環境のPRを行い、より一層の志願者増を目指すとともに、在校生やその保護者にも分かりやすい学校イメージを与える。 | 2019年4月より運営を開始するが、ホームページリニューアルは6月完成を目指している。 |
| 外部での広報活動について、本校の特長を受験生に正確に届ける。 | 8月の私立学校展は、東京国際フォーラムから科学技術館に変更となる。相談スペースも従来と比べて取れないために、特徴をまとめたフリップを用意するなど、準備を整えて臨む。 | フリップとなる写真や特徴を一目で理解できる資料を6月までに作製する。業者が撮った写真や、現在推進されている「櫻イノベーション」の説明を使用する予定である。 |

管理運営

| 取組目標 | 取組方策 | 取組スケジュール |
|--------------|--|--|
| 部活動の充実と負担の軽減 | 部活動のコーチ等を部活動支援員に切り替え、部活動の指導、公式試合の引率など、顧問の負担を減らす。 | 文部科学省、大学本部人事部からの規定及びガイドラインにのっとり、本校の規定の策定をする。 |
| 教職員の健康管理 | 長時間勤務の教職員に対して産業医による面談などを義務付け、積極的に休暇を取るように促す。 | 毎月タイムカードにより勤務状況を管理し、適切な対応をする。 |

中長期的目標の取組結果

教育活動

| 取組目標 | 取組結果・進捗状況 | 達成状況 |
|---------|---|------|
| 教務便覧の改訂 | 前回の改定から5年が経過して、様々な項目において整合性が取れなくなってきていることを鑑み、改定を行った。関係する部署とも連携を図り、実際に即した形で改訂版を出すことができた。 | B |

管理運営

| 取組目標 | 取組結果・進捗状況 | 達成状況 |
|----------|--|------|
| I C Tの活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を利用して、会議などのペーパーレス化ができた。 ・「Classi」の導入により、教職員への連絡事項が迅速かつ正確に発信できるようになった。 | A |

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

中長期的目標及び方策

保健衛生

| 取組目標 | 取組方策 | 取組スケジュール |
|-------|--|--|
| 感染症予防 | 感染症対策を周知徹底した結果、予防に役立っている。また教職員及び非常勤教職員対象のインフルエンザ予防、ワクチン接種を今後も実施していき、予防対策をさらに充実させていく。 | 11月 ①「感染症出席停止について」プリントを全校生徒へ配布 教員へ「感染症報告書」の提出手順及び注意事項を伝える。 ②インフルエンザワクチン接種実施予定 |
| 生徒相談 | 相談室利用の生徒・保護者への呼びかけは、ポスター・学年便り・櫻丘広報などを通じてしていく。教職員のインターカー取得の推進と生徒相談についての啓もうをする。 | 4月 呼びかけポスター作成・掲示 7月・3月 インターカー研修会の呼びかけ 生徒相談・カウンセリングは通年実施する。 |